

愛子ちゃんのお父さんへ

『拝復、お便り嬉しく拝見しました。実に素晴らしい進歩だと思いました。お父さんが参ってしまうくらい、繰り返し読んでもらいたいという愛子ちゃんの気持、これは進歩の原動力です。希望にこたえて、何回でもぜひ繰り返して読んでやって下さい。

質問も素晴らしいことです。質問を通して会話をやり取りすることが、これまた進歩のためのもう一つの原動力です。質問という機会を大切に生かしてほしいと思います。

歌詞を読ませたらどうかとの御質問。無論結構です。しかし、やってみて愛子ちゃんが余り喜ばないようでしたら、無理強いしないで、途中でよいからやめて下さい。

喜んですることや進んですることは、何であって頭が生き生きと活動するので、頭の働きを良くする効果があります。やってみたいと思うことがあったら、恐れず、迷わずやってみることで、やってみて、子供が少しも喜ばなかったり、効果がないようだったら、そこで直ちにやめれば良いのです。

絵は、描きたがらなければ、描きたくなくて描くまで待つことです。喜んで描かないからと言って、心配することは少しもありません。描いた絵は、下手でも褒めてやりますと、嬉しいものですから、進んで描くようになるかも知れません。反対に、けなしたり、良くしようと思って直してやったりすることは、気分を害しますから、描こうとする気持を失わせる恐れがあります。下手でも感心して見てやるのが大切です。

話す力は、話すことによって上達するものですから、話す意欲が出てきさえすれば、下手でも少しも心配することはありません。必ず上達します。だから楽しんで話せるような雰囲気作りに気を配ってやれば、それ以上のことは心配せずに、良い話し相手になってやることです。

今の特殊教育に満足できないお気持は良くわかります。教育方法をよく

知らないというよりも、基本的な考え方に誤りがあるから、学習効果が上がらないのです。しかし、それは「知的な教育は家でやればよいのだ」という覚悟をすれば、決して心配することはないと思います。

今の学校教育は、普通学級でも、“七五三教育”と言われていて、初めは学習についていけない子供が三割ほどいて、それがやがて五割に増え、卒業する頃には七割になってしまう、というのです。

普通学級で学習しても、学業がほんとは消化できる子供は三割で、あとの七割が落伍するというのでは、せっかく普通学級へやっても、学業が進むという保証はまったくない訳で、かえって心配です。

ですから、余り普通学級に期待を寄せることには、私は賛成できません。学校には何よりも楽しんで通えることが大事です。楽しんで学校生活を送っている限りは、意欲がふくらんでいくことでしょう。意欲さえ育てば必ず進歩します。

今のままで、お父さんが愛子ちゃんの相手になってやっていけば、六年生になる頃には、普通児の大部分の子供たちと比べて、決してひけを取らない力を持った子になると、私は確信しています。

なるほど現在は、愛子ちゃんの進歩のペースは、普通児に比べて確かに低いでしょう。しかし、着実に進歩して行っていますから、普通児の多くは今でこそ、ハイペースで進んでいます。落伍が多くなる六年生ごろには追いつき、その後は逆に追い越せる可能性が十分にある。私はそう思っています。(注 前ページグラフ参照)

人生は、一生涯をかけたマラソンのようなものです。レースはまだ始まったばかりです。あせってははいけません。急いで逆転する必要はないはず。決勝まで今のペースで走ったら、逆転は間違いなくできます。

ヨーロッパ旅行を数日後にひかえ、しかもそれまでに済ませなければならぬ仕事をかかえていて、十分な返事ができません。帰国後に、ゆっくりと時間をかけた返事をしたいと思います。取り急ぎ右』